

令和５年度 第１回 沖縄総合事務局開発建設部事業評価監視委員会
議事録

1. 開催日時：令和５年１２月１８日（月）１３：３０～１５：４５
2. 場 所：那覇第２地方合同庁舎２号館 沖縄総合事務局 ２階 災害対策室
3. 出席者：○委 員
小野 尋子 琉球大学工学部教授
島田 勝也 沖縄大学地域研究所特別研究員
富山 潤 琉球大学工学部教授【委員長】
豊田 良二 沖縄経済同友会常任幹事（りゅうぎん総合研究所社長）
仲地 健 沖縄国際大学産業情報学部教授
○沖縄総合事務局
河南次長、坂井開発建設部長、関企画調整官、種村港湾空港指導官、嶋倉那覇港湾・空港整備事務所長、宮川南部国道事務所長、眞栄里北部国道事務所長ほか

4. 議事要旨：

【再評価事業審議】

●那覇港臨港道路整備事業（若狭港町線）・一般国道５８号 那覇北道路

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

- 委 員：労務費の増加について、来年４月から残業時間の規制が建設業も適用になるが、考慮されているのか。
- 事 務 局：考慮していない
- 委 員：費用が増加しているが、メリットはそれほど増えていない。
便益の見直しは考えていないのか。
- 事 務 局：便益は貨幣換算可能なものを可能な限り評価して出している。その他貨幣換算できない効果についても挙げているところだが、ご意見をいただきながら進めて参りたい。
- 委 員：価値の１つに景観を表現いただけないか。
- 事 務 局：景観は、頭に置きながら進めて参りたい。
- 委 員：事業費が色々と上がることは理解できるが、丁寧な算出経過を資料としていただければと思う。
- 事 務 局：参考資料に算出根拠を示している。
- 委 員：デフレーターは同じ値で続けるものなのか。
- 事 務 局：最新の年度のデフレーターを用いている。
- 委 員：計画交通量が前回評価から上がった理由は。
- 事 務 局：ODが増えていること、また、西海岸側の開発が進んだことにより、交通の状況が西側に傾いたことと考えている。
- 委 員 長：対応方針について、事業継続としたいと思うがいかがか。
- 各 委 員：異議なし。

●一般国道５８号 浦添北道路Ⅱ期線

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

委員長：対応方針について、事業継続としたいと思うがいかがか。

各委員：異議なし。

●一般国道５８号 浦添拡幅

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

委員：キャンプキンザー側の整備は、少し簡易なものにした方が最後のまちづくりの時に合わせやすそうな気がするが。

事務局：まちづくりの検討の方は、これから煮詰まっていくものと思っている。今後、国道取り付けの集約等、具体的な協議をしっかりと行っていくという状況である。

委員長：対応方針について、事業継続としたいと思うがいかがか。

各委員：異議なし。

●一般国道３２９号 与那原バイパス・南風原バイパス

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

委員：令和２７年度の方が、令和２２年度と比べて交通量が減ると思う。交通量の多い令和２２年度で効果を出していくのは過大評価にならないのか。

事務局：交通量推計は、ルール上、平成２７年度全国道路・街路交通情報調査のＯＤを用いて令和２２年度の推計をすることになっている。
便益計算は、令和２２年度以降の交通量が減少する部分も加味した上で算定している。

委員：最新でとると、デフレーターが出すぎていると思う。割引率も強すぎるのではないか。

事務局：ＧＤＰデフレーターは、過去の分は公表値を適用。将来はデフレーターがないので、直近の年次の値を使い算出している。

事務局：全国統ルールとして技術指針上こうなっている。

現在、割引率は４％だが、最近の金利や国債の利回りは１％近い。本省においても検討会をしており、１％とか２％という数字が出てきた。来年度の事業評価から、１％や２％のケースを参考値として出す予定である。ご指摘のＧＤＰデフレーターについても議論がでてくると思うが、統ルールとしてご理解いただければと思う。

委員長：対応方針について、事業継続としたいと思うがいかがか。

各委員：異議なし。

●一般国道３２９号 西原バイパス

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業を継続」で了承された。

【審議内容】

- 委員：南風原バイパス、与那原バイパス、西原バイパスと繋がってきて、費用対効果の価値が発揮されるためにも次の展開はあるのか。
- 事務局：東海岸沿いは、引き続き社会情勢や周辺道路の道路交通網の整備を見ながら、３２９号の先線についても、しっかり調査を進めて参りたい。
- 委員長：対応方針について、事業継続としたいと思うがいかがか。
- 各委員：異議なし。

【事後評価事業審議】

●一般国道３２９号 金武バイパス

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「今後の事後評価及び改善措置の必要性はない」と了承された。

【審議内容】

- 委員：主要な観光地へのアクセス向上ということで、ネイチャー未来館が年間４万人くらいの利用者数となっている。５分の短縮ということで、便益については、時間短縮効果を利用者数とその地域の平均賃金を掛けて出していると思うがそれでいいのか。現在価値化したものは出ないのか。
- 事務局：金武インターチェンジからネイチャー未来館としたのは、金武町の主要な観光施設であり、コロナの影響があったが以前は１０万人程度の利用者があり、さらに伸びる可能性もあることから設定している。
- ５分の短縮ということだが、目的地がネイチャー未来館以外の交通に対しても金武バイパスのルートで移動すれば、現道を通るより５分短縮する効果が発現しているところである。
- 委員：それでは交通渋滞の緩和で貢献があるということか。
- 事務局：一番大きいものはモビリティの確保ということで、交通渋滞が緩和すればアクセス性も向上する。
- 委員：それでは事後評価は便益として計算しないのか。
- 事務局：割引率４％という条件で費用便益比を１．０３と算出している。
- 委員：１．１から１．０３に下がっているのはなぜか。
- 事務局：前回平成２７年度に再評価したときは、交通量のデータは平成１７年のＯＤのデータを使っており、今回は平成２７年ベースのＯＤを使っているため。
- 委員：この平成２７年から更に下降傾向になると、１を割り込むかもしれないということか。
- 事務局：交通量が将来減る分も想定した上で想定されている。
- 委員：１．０３はぎりぎりと思うが、１．０以上だからいいのか。
- 事務局：全国ルールの中で出さざるを得ず、Ｂ／Ｃとしては計算上こういう値になっている。

委員長：対応方針について、今後の改善措置及び事後評価の実施の必要性はないということにしたいと思うがいかがか。

各委員：異議なし。

【全体を通して】

委員：大きなルールがあることも承知の上で、沖縄的なことがあってもいいと思っている。例えば、景観や公共交通の定時性のようなものの価値みたいなものを知りたい。

事務局：事業評価はB／Cの話ばかりにされがちだが、もちろんB／Cだけでやっているわけではない。だが、景観や公共交通は、残念ながらまだ貨幣換算が困難といったところでとどまっている。

我々としては、公共交通みたいな視点は、資料で表現できなかったところもあるため、そういった視点もしっかりと取り入れていきたい。